

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0873700512		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム玉造の里		
所在地	茨城県行方市芹沢1652-10 (電話) 0299-55-2831		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価確定日	平成21年2月18日

【情報提供票より】 (平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,100 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2	要介護2	6
要介護3	7	要介護4	1
要介護5	2	要支援2	
年齢	平均 79.8 歳	最低 63 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つくば病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「その人らしいあり方を目指す」を理念に掲げ、日々職員間で話し合い利用者本位の支援をしている。
職員は積極的に研修を受講し、サービスの質の向上に活かしている。
利用者は職員の思いやりに満ちたさりげない行動と気遣いで穏やかで安心した生活をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の改善点は全職員で検討し改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	外部評価の意義や目的を全職員で理解し自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果について、改善に向け具体的な検討や実践につなげる努力をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者や家族代表、区長、民生委員、行政関係者の構成で3ヶ月に1回開催し、利用者の状況や生活ぶりを報告している。 委員から地域の情報をもらい、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	広報誌や金銭管理の書類とともに利用者の状況を添えて家族に報告している。 利用者ごとの暮らしぶりや状況等を電話や家族の訪問時に報告している。 玄関に意見箱を設置し意見や要望を汲みあげている。 第三者委員を設置し運営規程や重要事項説明書に明記するとともに、受付方法や解決方法の説明書を作成し家族に配布している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の祭りや小学校の運動会に参加するなど地域との交流に努めている。 小学生の下校時に合わせて散歩し、児童の見回りや声かけをしている。 地域の清掃を行い、近隣の人々と積極的に挨拶するなど地域の一員として努力している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解しているが設立後間もないため、地域密着型サービスとしての理念を確立するまでには至っていない。	○	地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を全職員で作成することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々理念の意義を話し合うとともに、全職員が理念を理解したうえで共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや小学校の運動会に参加するなど地域との交流に努めている。 小学生の下校時に合わせて散歩し、児童の見回りや声かけをしている。 地域の清掃を行い、近隣の人々と積極的に挨拶するなど地域の一員として努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を全職員で理解し自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果について、改善に向けて具体的な検討や実践につなげる努力をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族代表、区長、民生委員、行政関係者の構成で3ヶ月に1回開催し、利用者の状況や生活状況を報告している。 委員から地域の情報をもらい、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護支援専門連絡協議会に加入している。 市担当者や地域包括支援センターを定期的に訪問するとともに、情報交換やサービス内容の話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌（当月の行事予定や前月のホームの様子、献立等）や金銭管理の書類とともに利用者の状況を添えて家族に報告している。 利用者ごとの暮らしぶりや状況等を電話や家族等の訪問時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見や要望を汲みあげている。 第三者委員を設置し運営規程や重要事項説明書に明記するとともに、受付方法や解決方法の説明書を作成し家族に配布しているが、行政の相談窓口を明記していない。	○	苦情等申立窓口を明記している各種書類に行政の担当窓口も明記することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職者は少ないが、関連施設間での異動がある。 職員の異動があった場合は利用者や家族に交代者の情報を提供し、利用者のダメージを最小限に抑えるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は新人教育から資格取得教育まで充実したプログラムとなっている。 外部研修を積極的に受講し、受講者は報告書を作成しており職員はいつでも閲覧することができる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内関連施設間で交流したり、研修会等を通じて情報交換を行うとともに、行政主催の研修会に参加するなど全職員の資質向上やサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者と家族にホームを見学してもらうとともに、職員が自宅を訪問し安心感を得たうえで利用を開始している。 やむを得ず直ぐ利用になった場合は、家族に協力してもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から教えてもらう場面が多く、利用者は人生の先輩という考えを共有し敬っている。 利用者や職員はともに感謝の言葉で毎日を過ごしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用前の面接や情報提供により、これまでの生活歴を把握するとともに、言葉や表情などから思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聴き、それを尊重した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度介護計画の遂行状況や効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態の変化や状況に応じ現状に即して介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今後空室を利用したショートステイを計画している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に利用者と家族から受診する医療機関を確認している。 基本的にかかりつけ医を主治医としているが、ホームの協力医療機関を利用する場合は家族の同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームでの終末期のケアは困難であることを家族に説明し了解を得ている。 また、管理者や職員で方針を共有しているが今後の検討課題としている。	○	グループホームとしての考え方の説明だけでなく、書類に残し契約時に利用者や家族に説明することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねないように支援している。 個人情報全職員が守秘義務を理解し、外部評価においても家族の了解のもと情報を提供している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決っているが、利用者一人ひとりの意思確認を行いながら支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や後片づけは利用者と職員が一緒に行っている。 利用者と職員は一緒に食事をし、職員の一人は利用者と同じ食事を検食している。 食事は彩り良くバランスのとれたものとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のペースで毎日いつでも入浴できるよう支援している。 入浴拒否の利用者には職員が思いやりのある言葉かけで入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意なことを活かせる場面づくりをしている。 利用者の楽しみになるよう外出の際は手づくり弁当を持参している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は日々の散歩に心がけ、季節に応じたお花見や近隣の祭りに参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵がなく玄関にセンサーを設置し、利用者の外出による危険防止に配慮している。 窓は二重鍵にするとともに警備会社と委託契約を結ぶなど利用者や職員の安全に配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練や避難訓練を消防署立会いで行っている。 地域の消防団後援会に入会し、災害時に協力が得られるよう努めている。 法人内施設間で災害時の物品等の支給協力体制ができています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立により栄養バランスや食事量を利用者ごとに配慮している。 食事や水分の摂取量を毎日記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂の共用空間の窓は大きく開放感がある。 花や利用者の作品で季節感や和やかな雰囲気ができるよう利用者と職員で装飾している。 トイレなどは清潔に保たれ、浴室の脱衣所に畳を設置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品を居室に持ち込んでいる利用者は少ない。	○	利用者や家族と継続的に話し合い、利用者が安心して過ごせるよう馴染みの物品を持込んでもらうことが望まれる。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。